東京ＦＩＡニュース

第４４号　2008年5月10日　東京国際農業者協会

ハイライト：

記念講演　「シニア海外ボランティア体験を通して世界の食糧問題を考える」

投　　稿　2008年熊本県知事選挙奮闘記

目次：

研修生募集開始　1
壮行記念講演会　2
H20総会のご案内　3
熊本県知事選挙奮闘記　4
訃報、編集後記　8

平成２０年度海外派遣農業研修生

募集開始！

募集要項（応募資格と募集人数）

アメリカ・コンビネーション	昭和54年4月2日～平成2年4月1日 高等学校卒業、または同等以上の学力を有する方　普通自動車免許	70人
アメリカ・プラクティカル	応募時の年齢が21歳以上であること（概ね35歳まで） 2年以上の農業教育を受けていて、かつ農業経験が豊富で、日常会話に支障のない英会話力のある方　普通自動車免許	若干
デンマーク・プラクティカル	昭和54年4月2日～平成１年4月1日 高等学校卒業後、2年以上の農業教育を受けていて、かつ十分な農業経験を有する方（畜産を専攻していること）　普通自動車免許	5人
ドイツ・プラクティカル	昭和53年4月2日～平成１年4月1日 高等学校卒業後、2年以上の農業教育を受けていて、かつ十分な農業経験を有する方（畜産を専攻していること）　普通自動車免許	7人
スイス・プラクティカル	昭和53年4月2日～平成１年4月1日 2年以上の農業教育、または農業経験を有する方　普通自動車免許	10人
オランダ・プラクティカル	昭和57年4月2日～平成１年4月1日 高等学校卒業後、2年以上の農業教育を受けていて、かつ十分な農業経験を有する方　普通自動車運転免許	18人

経費（研修参加費）

アメリカ・コンビネーション	約18ヶ月	７４万円	アメリカ・プラクティカル		
デンマーク・プラクティカル	約13ヶ月	１１３万円	ドイツ・プラクティカル	約13ヶ月	１１１万円
スイス・プラクティカル	約13ヶ月	７９万円	オランダ・プラクティカル	約13ヶ月	１１４万円

講習参加費
(1) 事前講習参加費　すべてのコース共通 75,000円
(2) 補修講習参加費　アメリカ・コンビネーション・コース 25,000円
(3) 出発時講習参加費　アメリカ・コンビネーション・コース 17,000円
ヨーロッパ各国プラクティカル・コース 39,000円

壮行記念講演会＆懇親会

去る２月３日（日）オリンピックセンターにて恒例の壮行記念講演会を開催しました。今回は海外協力隊シニアボランティアとしてトンガ王国で海外支援活動を行ってきた臼井道雄（神奈川/S32/米3）兄の講演でした。
あいにく小雪がちらつく天気になってしまい、やむを得ず参加できなくなってしまった方もいらっしゃいました。そんな中、寒さをものともせずに集まった参加者は臼井兄の「熱い体験談」を聞き、講演終了後はレストランに移動して時間の許す限り「熱い交流」を堪能しました。
残念なことは、今年度本会が推薦したたった１人の研修生が遠方のため参加できなかったことです。

会場から目をやると　雪景色

参加することに意義があります

スライドはわかりやすい

懇親会は少数精鋭でした

平成２０年度東京ＦＩＡ総会のご案内

帰国報告会・歓迎懇親会

来る６月２８日（土）、平成２０年度総会および帰国報告会・歓迎懇親会を開催いたします。会場は、代々木の「オリンピックセンター」です。ヨーロッパ、米国での研修を無事終了し、逞しくなって帰ってきた青年たちの土産話を聞きながら、新しい仲間たちの歓迎の集いにしたいと思います。みなさまのご参加をお願いいたします。

開催日：６月２８日（土）
開催時間：１３時３０分
会場：オリンピックセンター
　　センター棟３０６号室

《スケジュール》
11:30　役員会
13:30　総会
15:00　帰国報告会
16:30　歓迎懇親会
18:00　閉会

オリンピックセンター
渋谷区代々木神園町3-1
TEL:03(3467)7201

●小田急線
参宮橋駅下車
徒歩7分

●地下鉄千代田線
代々木公園駅下車
徒歩10分

申込方法：お名前、連絡先を電話、ＦＡＸ、E-Mailで事務局までご連絡下さい。
申込締切：６月２０日（金）
参加費：懇親会3,000円（受付時にお支払い下さい。）

今年度帰国者
懇親参加費
無料

申込＆問合せ：担当　窪田
TEL　03（5703）0253
E-Mail　e_kubota@jaec.org

祝
蒲島郁夫兄
ご当選おめでとうございます

「夢　に　向　か　っ　て」
2008 年熊本県知事選挙奮闘記

熊本県国際農友会会長
蒲島郁夫選挙事務所選挙長　出田正明（S41/米 2）

◆１月５日
熊本自民党県連から電話が入った。
「新春の集い」を８日に開く、県連としては知事候補者として蒲島さん一本でいくことをその場で決める予定にしている。ついては蒲島さんを一番良く知っている熊本県国際農友会の会長に出席してもらい蒲島さんについて紹介してほしい、とのことだった。
その場は、まだ本人からその意思も聞いていないので…といってお断りした。

◆１月８日
自民党県連は、予定通り蒲島氏一本でいくことを議決。

◆１月１１日
県連発表を受け、それまで民主、自民双方からの出馬要請に「一党だけでの支援や推薦では出馬しない。」としていた蒲島氏も急遽帰熊。そして出馬の意思を表明。
この日からわが熊本県国際農友会は、一気に事実上の「選挙戦」に突入。
派米一回生の後藤さんの事務所を借り、選対役員会を重ねる。東大に席をおいたまんまの突然の意思表示。蒲島氏本人も東京、熊本を往復しながらの選挙戦。名刺もリーフレットも間にあわない。出遅れを取り戻すため本人の引き回し、集会、巡回をできる限り重ねる。

◆１月２８日
出馬表明。
事務所も運送屋の空き倉庫をなんとか確保。約百台駐車可能な広場と体育館のような広い広い倉庫。
だが、電話も電気もガスも満足に使えない。ストーブ、時計、カレンダー、湯呑み、ゾーキン、ホウキ。なんでもかんでも持ち込む。間仕切りのカーテン設置、シャッターを改造して出入り口をつくる。そして忘れてならない神棚を奉る。

◆２月２２日
事務所開き。
式典当日、広い倉庫の内外にいっぱいの支援者が集まり、農友会会員の場内整理もてんてこ舞い。
この日を境に人の出入りが急に激しくなる。派米４回生の白河部さんの奥さんと近所の奥さん達、我が家の女将に姉や妹、親戚の女性軍総動員で台所を稼動。呼応するかのように農友会会員から米、野菜など心のこもった差し入れが続々と届く。倉庫の一角に陣取った急ごしらえの台所も食材の山、山、山。肉がほしいと言えば肉、卵がほしいと言えば卵、実に豊富な食材が次から次へと仲間から送られてくる。
料理を作る人の輪も農友会の奥さんたちを中心にみるみる拡がる。朝早くからの仕込み、計算できない人の数、女性ならではの「勘」だけが頼りだ。準備する奥さんの手際の良さとは裏腹に食べる方はマイペース。夕食は早く出して早く片付けて帰りたい。なのに、「忙しい」「忙しい」となかなか食べてくれないウグイス嬢。フル回転の運転手さん達の食事は特に大変だ。

◆３月６日

出陣式。

「辛島公園」でトラクターに乗せて出陣させよう、と言う奇抜なアイデアも出たが「危険だ」と計画変更。球磨の「湯の前」で派米一回生の木野さんに無理に準備してもらい「実行」。

熊本県は広い。今日からおよそ２週間、分刻みのスケジュールだ。選挙カーは連日６時出発、１０時過ぎ帰陣。

水俣、人吉、天草、天草と４泊しながらの遊説。「途中声がしたのであわてて出ていったら、車の窓からちょっと手を出して走り抜けていった。」「せっかく集まっていたのに、車は遠い所を走っていった。」「みんな集まっているので、ぜひこっちの会場にも来てくれ。」などなど、ありがたい悲鳴の連続。

途中から候補者の奥さん、妹さん、甥さん、同級生の方々も動員して、本人が回りきれない場所には代役を送り込む。一方、選挙事務所では後援会名簿が集まるにつれ、ボランティアの人達に電話機の前に終日座ってもらう。

電話作戦スタート。

はじめは電話の応対が悪いと叱られた。「選挙長はどんな指導をしとるか」と長々と説教される。慣れない事務所の接客も、様々な人達が入って来て大変気をつかう。「事務所に行ったが『誰だろう』と言う顔をしての応対だった。」「雰囲気が悪かった。」そんな声を人づてに耳にする日々。（あんなに気をつかっているのに…）

考え直した。来客、訪問者は神様だ。姿が見えたら立ち上がり、笑顔で頭を下げ挨拶する。長居の客が困った。偉い訪問者には特に困った。応対せんといかんし、次の訪問者の姿が入口にある。どちらを待たせるか？どちらも大切。遠くからでも大声で、笑顔で声をかける。なるだけ来訪者すべての人に気持ち良く訪問し、帰っていただく工夫。車まで見送る。車が発車、見えなくなるまで頭を下げる。手を振る。ありがとうございます。よろしくお願いします。と…。

そして辻立ち。

選挙後半、県下各地で朝一時間「辻立ちしよう！」と会員に呼びかける。「ノボリ」を持つ手がしびれるような寒い朝。風雨の強い日も…。

最初はただ立っているだけ、頭を下げるだけ。だんだんと、通る車すべてに目配りし、目を合わせ、頭を下げる。「おはようございます。よろしくお願いします」と大声であいさつ。欲目だが１０台に１台くらいは、頭を下げてくれた。手を振ってくれた。窓を開けて「がんばって」と声をかけてくれた。雨の朝は特に反応が良い。みなさん本当にありがとうございます。

◆３月２２日

帰陣。

「上通」に県下から赤ジャン軍団が集まってくる。本人を先頭に最後のお願いの行進。午後６時３０分、長い選挙戦の疲れを感じさせないほど、本人の足取りはいたって軽やか。「も少しゆっくり歩いてください。」道往く人々に握手。右の店の中、左の店頭、若者、ご老人、子供さん。

すべての県民にお願いする一歩一歩の行進。１時間後、「下通」南端に置かれたミカンコンテナの上で「ファイナルスピーチ」。歩行者、買物客、商店主、人々の波。期待の大きさが、形になる。

３０分後、遊説隊帰陣。選挙事務所に戻り、壇上に上がった蒲島氏。お世話になった方々、一人一人に声をかける。お礼の言葉、感謝の気持ちを陣内すべての人々に表す。ご苦労様でした。

◆３月２３日

投票日。

全県、朝から雨。出足が心配。投票をすませ、事務所へ来て神棚へ一礼。いつにも増して祈りを込める。手元の携帯から知人、友人に最後の一押し。外には広報車が集結、倉庫内にも報道用カメラ設営、５台のテレビ、速報板も準備完了。いざ、投票締切りを待つ。すでに会場は支援者でほぼ満杯。朝青龍の優勝を告げていたテレビ画面も知事選投票締切りの報。

何分たっただろうか？ほんの数分後。「蒲島氏当確」のテロップ。どよめきに似た歓声。５台のテレビに瞬く間に当確が出揃う。本人はまだ待機所？途中？待ちわびる支援者のもとにようやく現れる。大拍手、歓声。奥さんと二人、壇上へ。

この時のために用意された「希望の鐘」がお二人の手によって叩かれ、会場に鳴り響く。

司会者のうわずった声に促され、みんなで着用しようと準備していた熊本県国際農友会のはっぴを身につけ壇上へ。蒲島氏と抱き合う。時おそしと待ちわびていた会場が、一つになる。力の限り万歳三唱。

「万歳！万歳！万歳！」

皆様への感謝と大勝利の万歳。

◆最後に

本選挙に関係してくれたすべての人々に感謝します。

選挙の手引き書を送ってくれたＭさん、

事務所を貸してくれたＧさんＹさん、

台所でがんばってくれたＨさん、

忙しいのに夜だけでもと出てきて手伝ってくれたＨさん、

自分は公務員だからと毎日料理をご主人に届けさせてくれたＳさん、

一度も選挙事務所には来てくれなかったが地元でがんばってくれたＫさん、

北海道から全国の友に呼びかけてくれたＳさん、

大きな小切手を持って支援を申し出ていただいたＩさん、Ｇさん、

遠くから応援に来ていただいたＳさん、Ｋさん、Ｉさん、

数えきれない同志の皆さん本当にありがとうございました。

そして何より、こんな素晴らしい楽しい時間を私達に与えてくれた「蒲島郁夫氏」ありがとうございました。

「夢に向かって」　感謝。

2008 年 3 月 30 日

写真:吉本善勝兄（熊本/S47/米２）

訃報

元山梨講習所長、河西美夫兄逝く

病棟から早春の諏訪湖を望む　　写真:横山幸司兄（岐阜/S53/米2）

かねてより病気療養中だった元山梨講習所長河西美夫兄（長野/S29/米1）は平成20年3月29日、お亡くなりになりました。87歳でした。
ここに故人の研修生事業への多大な貢献を称え感謝するとともに深く哀悼の意を表します。　　合掌

■編集後記

河西先生危篤の報せがあったのは2月29日、翌日神奈川の早藤兄らと病院で待合せてお見舞いにうかがった。かつて山梨講習所で「鬼の河西」とおそれられていた河西先生だが、点滴を投与されベッドに横たわる姿は痛々しいまでに衰弱していて見る影もなかった。かたわらで看病する奥様にかける言葉さえ、なかなか思い浮かばなかった。「研修生がくると元気になるんですよ」耳元で声をかけるとうっすら目を開け、か弱い声がのどの奥からもれてくる。「先生、無理しなくていいよ」「ゆっくり休んで早く元気になってください」

それから1ヶ月、「1週間くらい」と医者から宣告されていた先生の命は、研修生事業への情熱とともに天に召されていきました。河西先生は第３回派米実習生として渡米。帰国してから米国２年制の第２２回生で早藤兄にバトンタッチするまで、渡米前研修で常識のまったくない血の気だけがありあまっている私たちに身を持って「海外農業研修生とはかくあるべし」と教えてくれました。多くの仲間が魂を共有して交流し続けていられるのもこのような「礎（いしづえ）」があったからです。

河西先生　ありがとうございました　先生からいただいた貴重な教えは、いつまでも大切に持ち続けていきます。そしてみんなで伝えていきます。どうぞ安らかにお眠り下さい。（村田）

ー　編集発行　ー
東京国際農業者協会
〒144-0052
大田区蒲田5-39-2-6F
（社）国際農業者交流協会内
TEL:03-5703-0254
FAX:03-5703-0255
発行責任者：村田　正
E-MAIL:farm@planet.nifty.jp